

～みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり～

《基本方針》

岡垣町では、少子高齢化や核家族化が進み、住民相互のつながりが希薄化するなど、地域や家庭を取り巻く環境は大きく変化してきました。それに伴い、虐待や孤独死、生活困窮者への支援や災害時などに手助けが必要な避難行動要支援者への対応など、様々な地域課題が顕在化してきています。また、住民の福祉サービスに対するニーズは多様化し、従来のような高齢者、障害のある人、子どもなどの対象者ごとに支援する個別の制度の中では、多岐にわたるニーズに十分に対応できない状況が生じています。

このような状況の中、年齢や障害の有無にかかわらず、住民や学校、事業者など地域社会を構成するすべての人々が互いに支えあいながら、多様な主体の結びつきにより、ともに課題を解決していく共生社会づくりが求められています。

そして、多様で複合的な地域生活課題を解決するためには、住民相互の支えあいによる互助の取り組みを進め、自助、互助、共助、公助の連携によって、子どもから高齢者まで、すべての住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができるような仕組みを作っていく必要があります。

岡垣町社会福祉協議会では、岡垣町の地域福祉計画と一体的に策定した地域福祉活動計画に基づき、高齢者や障害のある人、子どもなど様々な領域を地域の視点でとらえ、住民主体の地域福祉を支援する立場からより効果的な実践に取り組みました。

《基本理念》

みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり

私たちの暮らしの基盤は「地域」にあります。地域の絆、地域での人と人とのつながりや困ったときに助け合える関係、支えあう仕組みづくりが重要となっています。岡垣町では、「互助」のさらなる充実により、地域で課題を解決していく力や地域での支えあい・助け合いの力の底上げをめざしました。支え手側と受け手側に分かれるのではなく、みんなが互いに支えあいながら、自分らしく活躍できる地域を目指し、基本理念を「みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり」としました。

《基本目標》

1. お互いに支えあう「つながり」づくり
2. 地域福祉を支える「ひと」づくり
3. 地域でともに生きる「環境」づくり
4. 誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

《基本目標ごとの取り組み》

1. お互いに支えあう「つながり」づくり

私たちのくらしの基盤は「地域」にあります。地域での人々のつながりや支えあい、生活課題の解決に向けた取り組みが一人ひとりのくらしを守り、豊かなものにしてくれます。近所づきあいは、あいさつ程度と希薄化していますが、地域での支えあいや助け合いの必要性は増えています。

支えあいや助け合いを進めるためには、日頃から地域で交流することを通じて、お互いを知り、「お互いさま」と言える関係づくりを進めていく必要があります。地域の人たちが交流し、つながり、そして、支えあい、助け合うことができる仕組みづくりを進めました。

(1) お互いさま命のネットワークの強化

【具体的な取り組み】

■お互いさま命のネットワークの推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- すべての自治区でのネットワーク活動を推進・支援し、見守り協力機関含めた重層的な見守り体制づくりに努めました。また、緊急時には地域・行政と連携して迅速に対応しました。

【主な事業】

1) お互いさま命のネットワーク活動の推進・支援

すべての自治区でのお互いさま命のネットワーク活動推進を目的に、活動に関する相談や情報提供など、自治区活動の支援を行いました。

また、地域での見守り活動の必要性と見守り協力機関の役割を再確認する場として、「お互いさま命のネットワーク活動交流会」を開催し、新たに寿会連合会、見守り協力事業所として金融機関や福祉施設等 23 事業所と協定を結び、見守り協力機関を 51 事業所に増やすなど、地域での重層的な見守り体制構築に向け取り組みました。

新規福祉団体／岡垣町寿会連合会

新規見守り協力事業所／23 事業所

- ・金融機関／遠賀信用金庫山田・岡垣支店、北九州農業協同組合岡垣・岡垣東部支店
- ・商店、事業所／トモミタス(株)
- ・福祉施設関係／小規模多機能型居宅介護事業所ゆい、更生会にじの郷、総合福祉施設更生会ふれ愛の郷、海老津園、特別養護老人ホームスマイル・岡垣、遊友館、住宅型有料老人ホームわらいの里、デイサービス I CAN、デイサービスセンターおひさま、デイサービスであい、住宅型有料老人ホーム丘の上の白い美術館に住む人達、山田の小道、サービス付高齢者向け住宅あすなろ岡垣、リハデイ吉木、つつじ庵、障がい者支援施設希望舎、指定障害者福祉施設こすもす園、児童養護施設報恩母の家

(2) ふれあい交流活動の充実

【具体的な取り組み】

- ふれあいサロンの推進
- ふれあい交流事業の充実
- 世代間交流の充実

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 住民同士の交流や居場所づくり、健康づくり・介護予防等を目的とした「ふれあいサロン活動」を推進・支援しました。

■障害のある人の交流事業を見直し、様々な立場の人がさらに広い範囲で交流できる事業に取り組みました。

【主な事業】

1) ふれあいサロン活動の推進・支援

少子高齢化や核家族化の進行による住民同士のつながりが希薄化するなか、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位での住民主体の通いの場である「ふれあいサロン活動」を、民生委員・児童委員等の関係者と連携して推進・支援しました。

また、社協だよりにふれあいサロン活動で実施できるレクリエーションや脳トレを掲載する他、ふれあいサロン実施区だけでなく未実施区に対して、職員を派遣するなどの支援を行いました。

ふれあいサロン活動支援自治区 21 自治区（平成 30 年度 13 自治区）

2) ふれあい交流事業の充実

○在宅介護者のつどい いこいの里

在宅介護者の心身のリフレッシュや情報交換、ふれあい交流を図るとともに、在宅介護者の会「こもれびの会」会員の増員を目的に、在宅介護者のつどいを開催しました。

令和元年 11 月 13 日 参加者 27 人

○地域ふれあい交流会「社協夏まつり」 屋内多目的施設すぱーく岡垣

地域ふれあい交流と福祉ボランティア活動等促進を目的とする社協夏まつりを開催しました。

令和元年 8 月 24 日 参加者 378 人

○障がい者クリスマス交流会（障がい児含む） いこいの里

障がい児・者の社会参加の促進とふれあい交流を目的に、障がい者団体、福祉ボランティア団体、九州共立大学・九州女子大学の協力を得て、障がい者クリスマス交流会を開催しました。

令和元年 12 月 8 日 参加者 59 人 総数 95 人

○囲碁・将棋大会 いこいの里

高齢者のふれあい交流、また異世代間での交流を目的に棋友会及び囲碁・将棋の会の協力のもと開催しました。

令和 2 年 2 月 10 日 参加者 25 人

（棋友会、囲碁・将棋の会 25 名）

3) おもちゃ図書館の運営

障がいのある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぼぼの会の協力により、毎月第 2 土曜日及び毎週木曜日（第 1・3 木曜日 3 歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日 60 日（うち一般開放 20 日）

利用者数

障がい者（児）：220 人（延べ人数）・乳幼児等：138 人（延べ人数）

家族等：227 人（延べ人数）・見学等：116 人（延べ人数）

※新型コロナウイルス対策の為、3 月は閉館。

（3）地域の多様な支えあいの促進

【具体的な取り組み】

- 地域コミュニティ活動の推進 ■生活支援体制の構築
- 地域での健康づくり・介護予防活動の推進 ■分野を超えた連携の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 住民主体の助け合いや、地域と事業所の連携など、公的サービスでは困難な助け合いを推進・支援しました。
- 生活支援コーディネーターとして本人、地域、事業所をつなぐ役割を担いました。
- 町内の社会福祉法人とのネットワークの構築に向け検討しました。

【主な事業】

1) 生活支援体制整備事業（町受託事業）

町から生活支援体制整備事業（小学校区を範囲）を受託し、お互いさまの地域づくりの推進・支援を行いました。事業実施に当たっては、これまでの第1層話し合いの場での経過を踏まえ、住民により身近な圏域での支えあい、助け合いの地域づくりを目指し、モデル校区（戸切校区）を中心に、下記事業に取り組みしました。

【主な取り組み】

- ・住民主体による生活支援についての必要性の周知・啓発／戸切校区コミュニティ合同部会説明、地区懇談会開催
- ・地域力で支える仕組みづくり／戸切校区話し合いの場、地区懇談会開催
- ・地域力を育むための支援／地域人材育成講座（地域共生に関する6テーマ）開催

(1) 地区懇談会（戸切校区内自治区）

○延べ人数 194 人の住民参加のもと地区懇談会を開催し、地域での支え合い助け合いの必要性や居場所づくりの意義など情報を発信するとともに、校区、自治区の現状や地域でのサロン活動を紹介するなど情報共有を行いました。

懇談会等実施状況

10月10日	龍王団地区 懇談会	11人
11月2日	上海老津区 懇談会	16人
11月9日	戸切白谷区 懇談会	28人
11月14日	戸切白谷区 ふれあいサロン	19人
11月16日	戸切百合野区 懇談会	28人
11月20日	龍王団地区 ふれあいサロン	17人
1月5日	戸切区 懇談会	39人
1月13日	戸切百合野区 ふれあいサロン	36人
合計		194人 (延べ人数)

(2) 協議体（話し合いの場）

○区の中でも地域ごとに生活環境や資源、人口構成等が異なることから、地域ごとの資源とニーズを把握し解決していくための仕組みづくりの前段として、校区コミュニティ合同部会に参加しました。また、各自治区での地区懇談会での情報・課題を共有し、話し合う場として「戸切校区話し合いの場」を行いました。

協議体（話し合いの場）実施状況

9月13日	戸切校区 コミュニティ合同部会	約50人
2月19日	戸切校区 話し合いの場	10人

3月	戸切校区 コミュニティ合同部会	中止
合計		約60人

※3月の合同部会は新型コロナウイルスの影響により中止。

(3) その他（自治区活動の支援）

○住民主体の生活支援の実践に向け、自治区内でゴミ出しに困っている方への支援を検討している旭中区に対し、ゴミ出し支援に関する区民意向調査のためのアンケート作りの支援や担い手・運営方法等先進事例紹介を行うなど、区民との話し合いの場を設け、生活支援実践に向けての支援を行いました。

2) 地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

地域におけるネットワークの構築、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材育成及び介護予防に資する地域組織（サロンや認知症カフェ等）の支援等を実施しました。

21 地区 1 団体 40 回 参加者延人数 861 人

（平成 30 年度：13 地区 40 回 参加者延人数 943 人）

認知症カフェ運営支援（オレンジカフェ天狗屋、オレンジカフェおしゃべり会）11 回
参加者延人数 190 人

（平成 30 年度：2 箇所 12 回 参加者延人数 225 人）

3) 社会福祉法人連携協議会の設置

社協が中心となり、町内の 7 つの社会福祉法人で連携協議会の設立に向けた意見交換を行い、1月に『岡垣町内社会福祉法人連携協議会』を発足しました。

令和元年 11 月 29 日

内 容 ・小規模法人ネットワーク化協働推進事業について（福岡県社協）
・会則（案）および設立趣意書（案）、発足時期について

参加法人 岡垣町社会福祉協議会、日本傷痍者更生会、岡垣睦福社会、つつみ会、局会、高章会、いわき福社会（福岡県社会福祉協議会）

令和 2 年 1 月 31 日

内 容 ・参加 7 法人の紹介 ・設立趣意書の発表 ・会則の承認および役員選任
・今後の方向性について ・記念撮影

参加法人 社会福祉協議会、日本傷痍者更生会、岡垣睦福社会、つつみ会、局会、高章会、いわき福社会（福岡県社会福祉協議会、岡垣町福祉課）

2. 地域福祉を支える「ひと」づくり

地域福祉の主役は、地域の人たちです。子どもから高齢者まで、地域のすべての人たちが地域福祉の担い手としての自覚を持ち、「お互いさま」の心で支えあい、助け合う人づくりを進めました。

また、地域の身近な支援者である民生委員・児童委員の活動を支援し、ボランティアや地域の「お世話焼きさん」など地域福祉を推進する「ひと」づくりを進めました。

(1) 福祉のこころを育む意識の醸成と啓発

【具体的な取り組み】

- 地域と学校の連携体制の推進
- 福祉教育の推進
- 認知症への理解の促進
- 障害のある人の差別解消の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■学校や地域と連携し、子どもから大人まで対象に応じた福祉教育を実施しました。

■認知症サポーター養成講座を推進し、正しい理解を広めました。

【主な事業】

1) 福祉体験講座（学校・地域）の実施

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的として、小・中学校等と連携し、福祉教育を実施しました。ウィルチェアラグビー（車いすラグビー）体験講座では、ウィルチェアラグビーの現役選手である田原氏を講師として迎え、障害者スポーツを体験しました。また、町在住の聴覚等の障害がある太田氏と岡垣手話の会に協力いただき、実際の手話に触れ合ってみる講座等もしました。

○福祉体験講座（車いす体験、アイマスク体験等）

岡垣中学校 1年生 4回：12コマ 参加者 延344人

海老津小学校4年生 2回：6コマ 参加者 延215人

吉木小学校 4年生 1回：3コマ 参加者 延118人

内浦小学校 4年生 1回：2コマ 参加者 延22人

○ウィルチェアラグビー体験講座

海老津小学校4年生 1回：2コマ 参加者 107人

吉木小学校4年生 1回：2コマ 参加者 59人

○手話体験・点字体験

海老津小学校4年生 各1回：5コマ 参加者 延221人

○福祉教育読本「ともに生きる」配布

町内小学5年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として配布しました。（福岡県社協作成） 配布数 300冊

2) 認知症サポーター養成講座の実施

認知症を正しく理解し、地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政と協働し中学生等を対象に開催しました。

令和2年1月28日 岡垣中学校1年生 178人 ※うち教職員10人

○認知症ケア地域推進事業

認知症を正しく理解し、認知症になった人を地域全体で見守る体制づくりが必要とされています。お互いさま命のネットワーク活動で認知症になっても住み続けられる地域づくりの構築を推進するため、自治区や福祉施設等で認知症サポーター養成講座を実施しました。

令和元年7月25日 希望舎 46人 職員、障害者支援施設入所者

令和2年1月29日 いこいの里 17人 龍王団地区

(2) 地域活動を支える担い手の育成

【具体的な取り組み】

■民生委員・児童委員の活動への支援 ■地域福祉活動を担う人材の育成

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■民生委員児童委員協議会の事務局として、各委員との連携を深め、その取り組みを支援しました。

■地域福祉に関する研修会や講座を開催し、人材育成に取り組みました。

【主な事業】

1) 岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

2) 地域人材育成事業（町受託事業）

地域包括ケアシステムの構築に向け、すべての住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができるよう、住民に身近な圏域において、自らが地域福祉の担い手として主体的に行動する人材育成を図ることを目的に、全6回の地域人材育成講座を実施しました。

第1回 令和元年7月6日 いこいの里 参加者 30人

講演：『持続可能な地域社会の実現のために』

講師：特定非営利活動法人 明日育 常務理事 長井一浩 氏

第2回 令和元年8月17日 いこいの里 参加者 45人

講演：「あってよかった！みんなの居場所」

～私たちの私たちによる私たちのためのふれあいサロン～

講師：東高倉ふれあいサロン、百合ヶ丘区福祉サロン

第3回 令和元年9月14日 いこいの里 参加者 26人

講演：「地域で取り組む災害対策」～命を守る・暮らしを支える～

講師：にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李 仁鉄 氏

第4回 令和元年10月12日 いこいの里 参加者 18人

「地域とともに」～たんぽぽハウスの取り組み～

講師：熊本県 NPO 法人にしはらたんぽぽハウス 施設長 上村加代子 氏

第5回 令和元年11月9日 いこいの里 参加者 25人

講演：子ども食堂はみんなの食堂

講師：東京都 株式会社 kipuka（キプカ）代表 早川 大 氏

第6回 令和元年12月14日 いこいの里 参加者 30人

講演：地域共生のまちづくり

講師：九州大学名誉教授 NPO 法人 AABC 理事長 小川全夫 氏

(3) ボランティア活動の推進

【具体的な取り組み】

■ボランティアの育成、支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ボランティアの育成、支援を行いました。

1) 福祉ボランティアの養成・支援

社協に登録している福祉ボランティア 18 団体に対し、岡垣町ボランティア育成・支援事業補助金交付規則（岡垣町）に基づき補助金を交付するとともに、福祉ボランティア活動を支援しました。

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会

令和元年12月14日 芦屋町 総合体育館 参加者 14人

講演 「明日からの仕事やボランティア活動が楽しくなるレクリエーション」

講師 NPO 法人福岡県レクリエーション協会 専務理事 佐藤靖典 氏

○ふくおか“きずな”フェスティバル

令和2年1月16日 春日市 クローバープラザ 参加者 10人

講演 「子どもの貧困と居場所づくり」

講師 筑紫女子大学 准教授 大西 良 氏

分科会

- ・高齢者「高齢者の地域福祉活動」

コーディネーター いちょうの杜山川 施設長 堀江桃子 氏

- ・災害「子ども・女性目線で考える防災」

コーディネーター 歌うママ防災士 柳原志保 氏

3. 地域でともに生きる「環境」づくり

全ての人が年齢や状況を問わず、その人のニーズに合った支援が受けられるよう全世代・全対象型の地域包括支援体制づくりが求められています。支援を必要とする人が、必要とするときに、適切なサービスを利用できるように、きめ細かな情報提供や相談支援体制の充実を進めます。あわせて、ユニバーサルデザインを推進し、誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる環境の整備に努めました。

また、地域福祉を推進するため、地域の人たちが、地域の色々な場所で、様々な関りを持ち、交流できるような地域福祉の拠点づくりを支援しました。

(1) きめ細かな情報提供と相談支援体制の充実

【具体的な取り組み】

- 相談支援体制の充実
- 広報広聴機能の強化

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 総合福祉相談窓口を中心に、他職種・他機関と連携し困りごと解決を図りました。
- 全国の先進事例や町内での優れた取り組みを把握し、社協だよりやホームページを活用し情報発信に努めました。

【主な事業】

1) 相談支援体制の充実

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

○総合福祉相談窓口

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅したてびきを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

総合福祉相談窓口（民生委員・児童委員等 22回：毎月2回・いこいの里）

総合福祉相談 1件

○心配ごと相談・法律相談

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、心配ごと相談、法律相談を開催しました。

法律相談（弁護士 17回：奇数月1回偶数月2回・いこいの里）

法律相談 69件

心配ごと相談（民生委員・児童委員 11回：毎月1回・東部公民館）

心配ごと相談 2件

※3月は新型コロナウイルスの影響により中止

2) 広報広聴機能（社協だより・ホームページ）の強化

○社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数 83,400部（6回/5・7・9・11・1・3月：全戸配布 13,900部）

○広報広聴委員会

住民の情報の共有化による地域福祉の浸透及び住民意思の反映の推進と、広報広聴業務の円滑かつ適正な処理を行うことを目的に広報広聴委員会を設置し、社協だより編集方針と社協だより年間計画を策定しました。また、広報広聴委員会の意見聴取を行うことで、社協だよりの紙面の充実を図りました。

○社会福祉協議会ホームページ

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設のPR等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めました。

（2）福祉サービスの充実と基盤の整備

【具体的な取り組み】

- いこいの里の運営 ■地域福祉を支える財源等の確保
- 各種福祉関連計画に掲げたサービスの提供

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 共同募金運動を推進し、地域福祉のために積極的に活用しました。
- 従来の分野では対応できない地域の問題や、制度の狭間にある複雑な課題に対し、地域での有償サービス等を含めた福祉サービスの開発に努めました。

【主な事業】

1) いこいの里の運営（指定管理期間：平成28年～令和2年）

いこいの里で福祉事業の実施や社協だより、社協ホームページ等により啓発し、施設の利用者の増員と利用率の向上に努めました。

いこいの里ふれあい館入浴施設については、自治区で実施しているふれあいサロン等を入浴施設で開催して頂くとともに、毎月のイベントの他にスポットイベント等を実施しました。

《いこいの里施設利用状況》

区分 \ 年度	令和元年度	平成30年度
施設利用者（利用率）	110,542人（55.8%）	113,046人（55.6%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	20,104人	22,338人
浴室施設利用者	41,804人	39,819人

利用率：使用日/開館日 ※3月は新型コロナウイルスの影響により休館

2) 共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携、協力し、街頭啓発や共同募金運動の推進に努めました。

募金実績 共同募金 5,723,241円（平成30年度 5,708,687円）

歳末募金 478,000円（平成30年度 470,000円）

3) 介護保険等サービスの質の向上

①居宅介護等事業

介護保険制度において、要介護等と認定された高齢者や障害者総合支援法における障害支援区分の判定を受けた利用者に対して、質の高いサービスの提供を行うため、職員を対象とした研修会の開催や資格取得のための勉強会などを積極的に行いました。

訪問介護事業では、要介護 1～5 の利用者、要支援 1,2 の利用者ともに増加したことで、増収となりました。

居宅介護支援事業は、居宅介護支援利用者の増加、介護予防支援利用者の減少により、利用者数は減少しましたが、収入は微増となりました。

収入 居宅介護支援事業 12,843,020 円（平成 30 年度：12,514,120 円）

訪問介護等事業 34,602,445 円（平成 30 年度：33,228,319 円）

《介護保険事業利用状況》

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30
訪問介護事業	50	53	55	58	53	56	53	52	48	51	53	56	638	604
介護予防・日常生活支援総合事業	60	63	63	64	65	65	67	72	71	70	67	64	791	763
居宅介護支援事業	65	65	66	65	63	65	66	68	71	73	69	72	808	738
介護予防支援事業	32	30	24	22	22	18	16	16	17	17	18	15	247	411
延利用者数	207	211	208	209	203	204	202	208	207	211	207	207	2,484	2,516

②障がい者の自立に関する取り組み

居宅介護・重度訪問介護事業では、障がいのある人等がその有する能力に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事の介護、その他の生活全般にわたる援助を行いました。同行援護事業では、常にサービスを提供できる体制を整えています。

《障害者総合支援法に基づく居宅介護等事業利用状況》

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30
居宅介護等事業 （障がい児・者）	7	9	10	10	10	9	9	9	9	9	9	8	108	96
地域生活支援事業 （障がい児・者）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	14	13
同行援護事業 （障がい児・者）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0

③期訪問介護事業

介護保険制度で自立と認定された人や介護保険制度外での支援が必要な人等へ訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）を実施しました。

《短期訪問介護事業》

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30
短期訪問介護事業	12	12	14	15	18	17	17	18	22	20	16	17	198	163

4) 在宅福祉サービスの充実

- ・送迎サービス事業
- ・入浴サービス事業
- ・福祉機器貸与事業
- ・福祉車両貸与事業
- ・コミュニティ車両貸与事業
- ・配食サービス事業（町受託事業）
- ・手話通訳者派遣事業（町受託事業）

○送迎サービス事業

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

送迎サービス事業を支援するボランティアが、安全に安心して活動できるように、送迎サービス研修会を開催しました。

送迎サービス研修会 いこいの里

令和元年6月22日 参加者 24人

《送迎サービス利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30
送迎回数	31	27	28	32	29	31	27	34	32	30	24	21	346	441
ボランティア活動人員 (延)	36	30	33	38	32	40	34	43	43	40	30	30	429	521

○入浴サービス事業

在宅の寝たきり高齢者で介護保険サービスを利用することが困難な方を対象に、介護老人福祉施設「恵の家」への業務委託により、入浴サービス事業を実施しました。

1人・3回

○福祉機器貸与事業

福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障がい者等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。

《福祉機器貸与延台数》 延 162台

車いす	109台	ベッド	14台	歩行器(車)	8台
ポータブルトイレ	7台	シャワー椅子	5台	介助バー	4台
入浴用踏み台	1台	シャワーキャリー	4台	オーバーテーブル	10台

○福祉車両貸与事業

高齢や障がい等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社協所有の福祉車両(車いす対応)の貸与事業を実施しました。

4回 (平成30年度:4回)

○コミュニティ車両貸与事業

ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。

3地区・4団体 21回 (平成30年度:2地区・5団体:24回)

○配食サービス事業(町受託事業)

調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週5回(火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日)の254日配食サービス事業を実施しました。

《配食サービス利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30
配食日数	21	23	21	22	20	20	23	22	20	20	21	21	254	254
配食数	2,065	2,270	2,105	2,247	1,975	2,071	2,334	2,258	2,096	2,112	2,174	2,190	25,897	25,595
平均配食数	99	99	101	103	99	104	112	103	105	106	104	105	102	101

○手話通訳者派遣事業（町受託事業）

聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

《コミュニケーション支援状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30
利用者数	5	4	7	7	6	7	13	6	14	8	8	7	92	57
派遣者数	5	4	7	7	6	7	11	5	12	8	7	7	86	57

(3) 人にやさしい生活環境づくり

【具体的な取り組み】

■地域福祉の活動拠点づくり ■移動手段の確保

■ユニバーサルデザインの推進と啓発

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■自治公民館や空き家などを活用した「居場所づくり」を積極的に支援しました。

■地域での有償サービスや、地域と事業所の連携による新たな移動支援サービスの取り組みを検討し、支援しました。

【主な事業】

1) 地域福祉の活動拠点づくり

地域共生社会の実現に向け、戸切校区コミュニティ運営協議会では、子どもから大人までだれでも利用できる地域交流拠点整備に向けた検討が進められています。戸切校区コミュニティ合同部会等に参加するなど、住民主体の地域福祉を推進するための地域での拠点づくりの支援を行いました。

2) 移動支援サービスの検討・支援

○送迎サービス事業を総合事業（介護保険制度）へ移行できるかについて、行政と協議しました。

4. 誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

災害は、ある日突然に起こるもので、日常の備えが欠かせません。災害発生時は地域のチカラ（互助）が重要です。災害時や緊急時に適切に対応できるよう、支援が必要な人の把握や地域での見守り体制を強化しました。関係機関と連携し、生活に困窮した人や制度の対象とならない制度の狭間にある人への支援を行いました。虐待防止に関する施策の推進や成年後見制度の普及に努め、権利擁護を必要とする人へ適切な支援を行いました。

(1) 災害時・緊急時の助け合いのしくみづくり

【具体的な取り組み】

■避難行動要支援者支援体制の確立 ■自主防災組織の育成

■災害ボランティアセンターの設置 ■福祉避難所の整備

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■町と連携して災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施するとともに、他市町村社協との広域的な連携を図りました。

■福祉的な配慮が必要な場合は福祉避難所を設置し、適切に運営しました。

【主な事業】

1) 災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの設置については、町と協定を締結しています。

2) 災害時の広域的な連携体制の強化

災害時において、効率的・効果的に災害ボランティア活動などの被災者支援活動を行えるように、遠賀ロータリークラブと中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会（1市4町）で災害時相互協力協定を締結しました。

遠賀ロータリークラブ・中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会災害時相互支援協定式 令和2年3月10日 芦屋町 福社会館

中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会災害関係者担当職員とひびき青年会議所との研修会 令和元年10月23日 芦屋町 福社会館

3) 福祉避難所の設置・運営

福祉避難所については、いこいの里が災害ボランティアセンターの拠点となるため、行政と福祉避難所の設置・運営について協議しました。

(2) 自立を支えるための支援

【具体的な取り組み】

■生活に困窮した人の自立支援 ■更生保護活動の支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ふくおかライフレスキュー事業に参加し、生活困窮者の自立を支援するネットワークづくりに取り組みました。

■福岡県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業を通じて、生活困窮の社会的、経済的自立を支援できるよう努めました。

【主な事業】

1) ふくおかライフレスキュー事業（実施主体 福岡県社協）

ふくおかライフレスキュー事業は、高齢者の介護・障がい児者への支援・児童の養育等、さまざまな専門性を備え長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、地域の課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるよう支援を行う社会貢献の取り組みです。岡垣町からは2法人4事業所が参加し、地域の困りごと解決に取り組みました。

参加法人 社会福祉協議会、日本傷痍者更生会（恵の家、希望舎、報恩母の家）

実績 ふくおかライフレスキュー事業 1件（平成30年度：1件）

参加法人連絡会 3月27日 社会福祉協議会、希望舎 3人

2) 生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

景気低迷が原因による離職者や母子世帯等で生活に困窮している方の相談と貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、低所得者の自立更生の支援をしました。

相談件数：23件（平成30年度：14件）

貸付件数：11件（平成30年度：14件）

◎緊急小口資金：2件 165,000円

内訳（生保支給までのつなぎ：1件、その他：1件）

◎総合支援資金：1件 544,000円

内訳（生活支援費：1件、一時生活再建費等：1件）

◎教育支援資金：6件 5,859,000円

内訳（教育支援費：6件、就学支度費：6件）

◎福祉資金：2件 131,000円

内訳（福祉費：2件 生活保護受給者生活必需品）

3) 生活福祉資金（緊急小口資金、総合支援資金）特例貸付事業（県社協受託事業）

新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業等により、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象として、生活福祉資金貸付制度における総合支援資金（生活支援）及び福祉資金（緊急小口資金）について特例措置が設けられ、資金貸付の相談窓口として、令和2年3月23日（月）より対応しました。

相談件数：10件

貸付件数：2件

◎緊急小口資金：2件 300,000円

(3) 権利擁護を必要とする人への支援

【具体的な取り組み】

- 成年後見制度の普及と利用促進
- 金銭管理に不安を抱える人への支援
- 死後事務の支援
- 虐待やDV被害の防止対策

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 身寄りのない高齢者などの権利擁護のため、法人後見事業に取り組むことについて検討を行いました。
- 福岡県社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業を通して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。
- ずっと安心プラン事業（葬儀納骨残存家財処分などの死後事務委任）の充実に努めました。

【主な事業】

1) 法人後見事業の検討

身寄りのない高齢者などの権利擁護のため、日常生活自立支援事業の契約者に対して、引き続き法人成年後見人等になることで、安心と信頼に基づく支援が実施できるよう、関係課・関係機関等と法人後見事業の取り組みについて検討しました。

2) 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

認知症、知的障害、精神障害の方を対象に、本人の自立に向けて福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行いました。また、今度ますます認知症高齢者等の対象者増加が見込まれるなか、支援体制強化を目的に、これまでの基幹的社協方式から全市町村方式に転換を図るための事務移行手続きを行うとともに、本事業の周知を目的に社協だより掲載や、関係機関との情報共有など制度の普及に努めました。

- ・日常生活自立支援事業契約者 20人（支援件数延 302件）
（平成30年度：15人 支援件数延 191件）

3) ずっと安心プラン事業

高齢者や障がい者などが安心して生活できるよう、社協が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りサービス・かぎ預かりサービス・入退院時等の

支援を行うずっと安心プラン事業を実施しました。また、終活に関する専門相談窓口の設置、終活セミナー開催および県内外視察受入れなど、本事業PRに取り組みました。

・契約者 1 人、契約手続き中 5 人・相談延べ件数 51 件（平成 30 年度：延べ 57 件）

・終活セミナー（全 3 講座） いこいの里

第 1 回 令和元年 12 月 11 日 いこいの里 参加者 34 人

講師 終活パートナー九州 真武純哉 氏

講演 「なぜ“今”必要？ 終活ってナンダ」

第 2 回 令和 2 年 1 月 29 日 参加者 99 人

講演 「家族で考える相続・遺言のポイント」

講師 終活パートナー九州 真武純哉 氏

内容 「みんなで考えよう空き家問題」

説明 都市建設課

第 3 回 令和 2 年 2 月 5 日 参加者 112 人

講演 「聞きたい、知りたい葬儀・お墓の事情」

講師 終活パートナー九州 真武純哉 氏

内容 「みんなで考えよう空き家問題」

説明 都市建設課

・ずっと安心プラン事業視察受入

令和元年 11 月 28 日 いこいの里

島根県鹿足郡津和野町社会福祉協議会役職員 25 人

令和元年 12 月 10 日 いこいの里

佐賀県社会福祉協議会、佐賀県神崎市社会福祉協議会、有田町社会福祉協議会

4. 法人としての取り組み

【具体的な取り組み】

■行政、関係機関・団体との連携強化

■役員体制および事務局体制の強化

○社会福祉協議会役員体制の強化

社協の運営強化、役員等への情報提供の強化を図るとともに、研修会等へ参加していただきました。

福岡県社会福祉大会 春日市 クローバープラザ

令和元年 10 月 30 日 参加者 6 人

講演 地域共生社会の実現に向けて～今、社会福祉関係者に求められている役割～

講師 厚生労働省九州厚生局長 塚本 力 氏

○社会福祉協議会事務局体制の強化

職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換会を開催しました。

平成 31 年度市区町村社会福祉協議会会長・常務理事・事務局長会議

春日市 クローバープラザ

平成 31 年 4 月 24 日 参加者 1 人

実践報告

「ふだんのくらしのしあわせ住民参加プロジェクト」

広川町社会福祉協議会 統括主査 江口信也 氏

「町内社会福祉法人連絡会と地域のさまざまな団体等が連携した社会福祉貢献の取組」

新宮町社会福祉協議会 地域福祉係長 吉田美枝 氏

社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、毎月職員定例会を開催しました。

○その他の事業

社協会長表彰

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対して、表彰状及び感謝状を社協夏まつり開催時に贈呈しました。

令和元年8月24日 いこいの里

被表彰者 34人 1団体

社会福祉事業特別功労者 3人

社会福祉事業協力者 27人

特別表彰（寄附）4人 1団体

助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。

《活動助成金交付内容》

- ・児童養護施設報恩母の家（交流会等）
- ・自転車通学生ヘルメット購入費補助
岡垣中学校 56人、岡垣東中学校 65人
- ・修学旅行費補助（要保護・準要保護等の児童・生徒を対象）
岡垣中学校 30人、岡垣東中学校 15人
内浦小学校 4人、吉木小学校 6人、海老津小学校 13人、
山田小学校 20人、戸切小学校 1人
- ・特別支援学級運営費補助
岡垣中学校 9人、岡垣東中学校 11人
吉木小学校 10人、海老津小学校 20人、山田小学校 14人、戸切小学校 1人
- ・通級指導学級運営補助
岡垣中学校 11人、海老津小学校 5人

歳末たすけあい事業

在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しました。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	39人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	48人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	53人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	26人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	60人
年賀はがきの配布（27自治区）	1,221枚

○各会議開催状況

理事会・評議員会開催状況

<理事会>

第1回	5月21日	議案第1号	理事選任候補者の推薦について
		議案第2号	監事選任候補者の推薦について
		議案第3号	第1回評議員会の開催について
第2回	6月5日	議案第4号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第5号	第1回評議員選任・解任委員会の開催について
		議案第6号	平成30年度事業報告について
		議案第7号	平成30年度収入支出決算
		議案第8号	第2回評議員会（定時評議員会）の開催について
第3回	6月19日	議案第9号	会長の選定について
		議案第10号	副会長の選定について
		議案第11号	常務理事の選定について
		議案第12号	評議員選任・解任委員会委員の選任について
		議案第13号	令和元年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
第4回	11月1日	議案第14号	令和元年度補正予算（第1号）
		議案第15号	第3回評議員会の開催について
第5回	11月27日	議案第16号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第17号	屋内多目的施設すばーく岡垣設置及び施設管理運営に関する規程の一部を改正する規程
第6回	2月19日	議案第18号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第19号	指定居宅介護支援事業所運営規程の一部を改正する規程
		議案第20号	社会福祉法人指導監査結果について
		議案第21号	令和元年度補正予算（第2号）
		議案第22号	令和元年度福祉基金の取り崩しについて
		議案第23号	第4回評議員会の開催について
第7回	3月18日	議案第24号	職員給与規程の一部を改正する規程
		議案第25号	令和2年度事業計画について
		議案第26号	令和2年度予算
		議案第27号	令和2年度福祉基金の取り崩しについて
		議案第28号	第5回評議員会の開催について

<評議員会>

第1回	5月28日	議案第1号	理事の選任について
		議案第2号	監事の選任について
第2回	6月19日	議案第3号	平成30年度事業報告について
		議案第4号	平成30年度収入支出決算
第3回	11月8日	議案第5号	令和元年度補正予算（第1号）
第4回	2月28日	議案第6号	令和元年度補正予算（第2号）
第5回	3月27日	議案第7号	令和2年度事業計画について
		議案第8号	令和2年度予算

